７月２８日（土）Vamos Papear ふりかえり

てじまりえ

・ポルトガル語学習について

Festa Junina 以来、約１ヶ月ぶりの訪問でした。今回は、この活動の原点は、毎週の母語保持教室にあるということを特に意識して参加しました。 ポルトガル語学習の時間に、私は Yaemi さんのクラスに参加しました。 Yaemi さんのクラスは、毎回ガッツリとポルトガル語を読んで書くというイメージがあるので、私自身もポルトガル語学習ということをより強く意識できるかなと思い、参加させていただきました。子どもの頭の中にあるポルトガル語の流れを中断させないように、クラスでは、できるだけ日本語を使わないようにしました。 Yaemi さんのクラスには、Rafael と Leandro がいましたが、私は、Rafael がこんなに長くポルトガル語を話し続けているのを初めて見ました。Leandro とふざけ合っているときもポルトガル語です。何かを決めるときの「どちらにしようかな、天の神様の言うとおり・・」みたいな歌（？）もポルトガル語だったのは面白いなと思いました。それでも、クラスに私がいることによって、全く日本語を使わないというわけにはいきません。ときどき日本語を使う必要性が出てきます。このことがどういう影響を及ぼすのだろうと考えてみました。 Vamos Papear に通い、特にポルトガル語学習の時間に感じることですが、日常日本語がかなり流暢な子どもでも、「〇〇って日本語でなに？／△△ってポルトガル語でなんていうの？」と急に尋ねたりすると、簡単なことばでも意外に出てこないことが多いです。教室の目的の一つには、加算的バイリンガルを育てることもあると思います。ポルトガル語学習の時間ですから、その流れを保つことは大切ですが、そこに突如登場するほんの少しの日本語は、バイリンガルを育てる上で活性材料となるのではないでしょうか。でも、その日本語のインプット量は慎重にコントロールする必要があると思いました。ポルトガル語と日本語の切り替えが負担なくパッパッとできるというのが理想的なのでしょうが、Vamos Papear には、その過程段階にいる子どもが何人かいるように見えます。ポルトガル語を話さないぱずるが母語保持教室に参加することの意味、まだまだ考える必要がありますが、子どもたちへの情意的作用の他に、バイリンガルを育てる上でも意義があるのではないかと考えます。でも、意味をもたらすためには、ある程度の日本語インプットの量やタイミングをコントロールが必要があると思います。

・Milena＆Michiko の読み聞かせ

美智子ちゃんが『パパのくれたくりもの』（芭蕉みどり作・絵）という本を選び、読み聞かせをしました。Erica さん、Silvia さんの代わりに、この日は Milena がポルトガル語翻訳を読みました。画期的なことだと思う一方、とても自然な流れだという気もしました。 Milena は、はじめ緊張や恥ずかしがっている様子でしたが、だんだん表情もやわらかくなり、笑顔もみられるようになりました。途中でポルトガル語翻訳が抜けている部分があったらしいのですが、そこをなんとか解決したり、読み終わった後で、本に出てくることばについて、子どもたちに質問してみたらどうかと美智子ちゃんに提案したりしたそうです。 Milena のこのような様子を見聞きできたのは、とても感慨深いです。美智子ちゃんの読み聞かせも久しぶりでした。自由度が増していいなぁと思いました。また、読み聞かせの様子をビデオカメラで録画するカロリナ、ジュリ。内容を先に読もうとする Rafael、集中力がきれ私に話しかけてきた Julia、Hiromi さんに怒られて隅でいじけている Leandro と横にいるはるな。さやかちゃんは、子どもたち全体を気にしている。それぞれが思い思いに自然体でいる様子がいいなぁと思いました。バラバラのようでもあり、でも、同じ空間を無理なく共有している感じがしました。とてもいい時間だったと思います。

・PEO 企画始動！！

Milena のスピーチで始まりました。Hiromi さん：「みんなの前でこんなに長くお話しするのは難しいけど、お友だちにだったら話せるよね？今日は、みんなに新しいお友だちを紹介します」。子どもたちには、小さいお友だち（ピエロ人形）ができました。お友だちに名前をつけると、みんなの家に旅をします。一緒にどう過ごすか考えるところからスタートします。この方法、ピタゴラスでも行われたそうですが、今後どう進んでいくのかとても楽しみです。